

令和3年度

第2回千代田区地域包括支援センター運営協議会

—議 事 録—

日時：令和4年2月28日（月）18:30～20:30

場所：かがやきプラザ1階 ひだまりホール

千代田区 保健福祉部 在宅支援課

■開催日時・出席者等

日時	令和4年2月28日(月) 18:30～20:30	
場所	かがやきプラザ1階 ひだまりホール	
出席者	委員	杉山委員、高野委員、藤谷委員、高野(学)委員、加賀委員、西田委員、依田委員、花井委員、前田委員、丸橋委員、末廣委員、有村委員
	地域包括支援センター	今井いきいきプラザ一番町施設長、金井特別養護老人ホームかんだ連雀施設長、竹内高齢者あんしんセンター麴町センター長、川島高齢者あんしんセンター神田センター長
	事務局	歌川保健福祉部長、原田地域保健担当部長、神河高齢介護課長、白井在宅支援係長、赤石澤相談係長、島田地域包括ケア推進係長、古庄介護予防担当係長
欠席者	元田委員	
議事報告者	高齢者あんしんセンター麴町；竹内センター長 高齢者あんしんセンター神田；川島センター長	

■議事録

〈開会〉

○赤石澤 皆様、本日は年度末のご多用の中お集まりいただき、ありがとうございます。私は、在宅支援課相談係の赤石澤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

相談係長

それでは会議を始める前に、委員の皆様にお願いがございます。この会議は公開を前提に開催しており、傍聴の許可と議事録の区ホームページへの掲載を行っています。今回、傍聴希望はありませんが、会議録作成のために録音機を置かせていただいておりますので、ご了承願います。

ホームページ公開に当たりましては、各委員の皆様には発言内容等の事前確認をお願いいたしますので、後日ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

また、本日は対面形式及びウェブ会議システムを活用したオンライン方式を複合させた形式で当協議会を実施いたします。議事の円滑な進行のため、機材トラブルなどございましたら、大変恐縮ですが、一度ログアウトしていただき、パソコンを再起動の上、再度ログインくださるようお願いいたします。

次に、本日の議事に使用いたします資料の確認をさせていただきます。

まず、資料1-1から1-6、参考資料1、資料2-1から2-2、資料3-1から3-3、資料4につきましては、事前に送付をさせていただいております。

本日皆様に配付しました資料は、次第、座席表、委員名簿の3点です。

会場の皆様で、お手元がない資料がございましたら、事務局がお持ちしますので、恐れ入りますが挙手をお願いいたします。大丈夫でしょうか。

では、開会に先立ちまして、保健福祉部長歌川からご挨拶申し上げます。

○歌川保健  
福祉部長

皆さん、こんばんは。またZoomでご参加の先生方、ありがとうございます。本当に、先ほども赤石澤のほうから申しました、年度末のお忙しい時間を割いていただきまして、ありがとうございます。

今年度はずっとコロナの関係で1回目の地域包括の運協は書面開催ということになりましたけれども、やはり地域包括の活動というのは、区民の方たちの本当の頼りになっている部分もありますし、期待も大きい反面、また要求も高くなっているというところで、この運営協議会でしっかり地域包括の活動についての議論をしていただいて、課題があるのであれば、それを整理し、この後どんどんよくしていくためにぜひとも必要な会議とっておりますので、どうぞ短い時間ではございますけれども、いろいろご示唆を頂きたいと思っております。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

○赤石澤  
相談係長

それでは、以降の進行につきましては、高野会長にお願いしたいと思います。高野会長、よろしくをお願いいたします。

○高野会長

それでは、これより令和3年度第2回千代田区地域包括支援センター運営協議会を開催したいと思います。

まず最初に、本日の協議会の成立につきまして、事務局から報告をお願いいたします。

○赤石澤  
相談係長

それでは、本日の協議会の成立についてご報告いたします。運営協議会設置要綱第10条に基づき、委員の半数以上の出席が開催の条件とされております。本会議の定数13名、本日ご出席いただいております委員の数は11名でございますので、本日の運営協議会が成立していることをご報告いたします。

あとは、元田委員から前もってご欠席の連絡を頂いております。また、加賀委員からは前もって遅れる旨のご連絡を頂いております。

今年度の協議会は初めての開催となりますので、ここで委員の皆様簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。お手元にお配りしている名簿の順に、まず高野先生から自己紹介をお願いいたします。

○高野会長           では、名簿の一番上ですので、東洋大学の高野と申します。この運営協議会は確か発足当初、さらに遡ると発足前から千代田区地域包括支援センターに関わらせていただいて、多分16年目か17年目かになってしまいます。もともとケアマネジャーをやっていたこともあり、地域包括支援センターの皆さんの業務については、それなりに知っているつもりですので、その立場から関わらせていただいています。よろしくお願いいたします。

○杉山委員           東京都健康長寿医療センター研究所の杉山といいます。研究員をしております。千代田区さんとは認知症の支援構築の事業ですとか、すこやかチェックリストという調査の事業等で日頃から関係をよくさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○赤石澤           藤谷先生はウェブで参加のご予定ですが、まだログインされていないよう  
相談係長           うですので、高野学美先生、よろしくお願いいたします。

○高野（学）       こんばんは。千代田区医師会の高野です。あんしんセンターの方々の大  
委員               活躍を目の当たりにして非常に感銘を受けたり、いろいろ勉強させていただいたりしています。医師会の先生方とあんしんセンターのつながりというのをもっと強くしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○赤石澤           加賀先生は遅れていらっしゃる。元田先生はお休みということですね。  
相談係長           西田先生、よろしくお願いいたします。

○西田委員           麴町歯科医師会の西田と申します。今年度から新しく委員になりました。  
                          よろしくお願いいたします。

○赤石澤           では、依田先生、お願いします。  
相談係長

○依田委員           千代田区歯科医師会の依田です。今年から私も委員になりましたので、  
                          よろしくお願いいたします。

○赤石澤           続きまして、民生・児童委員の花井さん、よろしくお願いいたします。

相談係長

○花井委員 民生・児童委員の花井と申します。慣れない中で、いつの間にか今年度で確か卒業させていただくことになると思います。今回最後かと思いますが、よろしく願いいたします。

○赤石澤 同じく民生・児童委員の前田さん、お願いします。

相談係長

○前田委員 民生・児童委員の前田です。本日は地元千代田を離れて、オンラインで参加させていただけることを大変感謝しております。今日はどうぞよろしく願いいたします。

○赤石澤 丸橋さん、お願いいたします。

相談係長

○丸橋委員 丸橋千加子といいます。一般公募で応募させていただきまして、こんなことを言ったらあれですが、偉い先生の中で少し緊張しているのですけれども。千代田区に暮らし始めて23年になります。なので、一住人として、それから社会福祉協議会のほうのボランティアで家族介護者対象のサロンを月に1回、2010年からやっているのですが、このコロナの中で、なかなか参加者がいろいろと不安を抱えていらっしゃるのを身近に感じているものですから、それが何か役に立てばいいなと思っております。よろしく願いいたします。

○赤石澤 では、末廣さん、お願いします。

相談係長

○末廣委員 すえひろプランニングのケアマネジャーをさせていただいています末廣です。今日は、どうぞよろしく願いいたします。

○赤石澤 では、有村委員、お願いします。

相談係長

○有村委員 同じく、ちよだケアマネ連絡会の有村といいます。昨年度に続き、委員を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

○赤石澤 それでは、続きまして地域包括支援センターの皆様にも紹介をお願いいたします。今井さんからお願いいたします。

相談係長

○いきいきプ いきいきプラザ一番町の施設長の今井と申します。あんしんセンター廻

ラザ一番町 町ともどもよろしく願いいたします。

今井施設長

- 特別養護老人ホームかんだ連雀の施設長の金井です。よろしく願いいたします。

かんだ連雀

金井施設長

- 高齢者あんしんセンター麴町、センター長の竹内です。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

一麴町竹内

センター長

- 高齢者あんしんセンター神田、センター長川島典子と申します。よろしく願いいたします。

一神田川島

センター長

- 赤石澤 相談係長 それでは、事務局のほうなのですが、本日は6名出席しておりまして、名簿のほうをご参考にしていただければと思います。よろしく願いいたします。

以上で自己紹介のほうは終わらせていただきます。

- 高野会長 それでは、これより次第に沿って議事を進めてまいります。本日の運営協議会の議事・議題は、議事案件4件とその他を予定しています。この協議会は遅くとも8時30分を目途に終了したいと考えています。円滑な議事進行を図るため、発言は簡潔に、また、多くの委員がご発言いただけるようにご協力をお願いします。

事前送付の資料はお目通しいただいていることと思いますので、両高齢者あんしんセンターからの報告は要点のみとし、委員の皆様のご意見を伺うことをメインとして会を進めてまいります。

それでは、議事（1）の「千代田区地域包括支援センターの運営評価結果について」でございます。事務局から、まずはご説明をお願いいたします。

- 赤石澤 それでは、進める前に1点、次第の訂正をさせていただきます。議事の

相談係長 ほうの振り番ですね、括弧の番号が（１）・（２）・（３）で、（３）が２つあるのですが、こちら（４）に訂正をお願いいたします。失礼いたしました。

では、議事（１）の「千代田区地域包括支援センターの運営評価結果について」報告させていただきます。

高齢者あんしんセンターの運営評価につきましては、毎年度評価部会を開催しております。今年度は２月３日に開催いたしました。実施方法といたしましては、両高齢者あんしんセンターの利用者によるアンケート、ケアマネジャーによるアンケート、民生・児童委員によるアンケートを事前に実施いたしました。

その結果と、高齢者あんしんセンターが自己評価を行い、当協議会の委員の皆様のうち５名にご協力を頂きまして、評価委員としてヒアリングをした上で評価するという手順で行っております。

アンケートの詳細の内容につきましては、皆様お目通しいただいていることと思いますので、ここでは割愛させていただきます。総じて、好意的なご意見を頂いております。

では、資料１－４の評価結果の集計表を御覧ください。両面の資料になります。表が麹町、裏が神田となっております。細かい評価表の説明は割愛させていただきますが、この２つのうちの右側、１００点換算というところで、「自己評価」「委員」「区」とありますが、それぞれの項目に対して自己評価の点数、委員の点数、区の点数ということで、総合的に高齢者あんしんセンター麹町が、自己評価８６点、委員の評価８８点、区の評価が８４点、神田のほうは、自己評価が９３点、委員が９１点、区が９０点でした。

全ての項目において８０点以上になっておりまして、おおむねよい運営をされているとの評価結果となったことをご報告いたします。

説明は以上になります。

○高野会長 ありがとうございます。ただいまの報告を受けて、質問や意見がある方は挙手を願います。ウェブで参加の方も画面上で手を挙げていただければ結構かと思えます。

事前に送付されている資料が、結構分量があると思えますが、ある意味、

それらを集約しているものが、今ご報告いただいた資料1-4の全体的な集計かと思いますが、運営状況についてのご質問ということで構わないと思います。挙手の上、ご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

○杉山委員 今80点以上の得点とお伺いしたのですけれども、1枚目の3番については、80点未満の項目があるで間違いないですか。麴町の3の「多職種協働におけるネットワークの構築ク」のところの点数が、今お伺いした点数と違うように感じるのですが。

○赤石澤 相談係長 そうですね、67というのがあり、申し訳ありません。項目の中では確かに少し低い67点というものがございました。

○杉山委員 総合点でという。

○赤石澤 相談係長 そうですね、申し訳ありません。

○杉山委員 すみません、聞き間違えました。

○赤石澤 相談係長 すみません、こちらも説明がうまくいきませんで、申し訳ありませんでした。総合点では、それぞれの項目で80点以上ということになります。

○高野会長 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょう。

高野です。私が自分で言うのも変なのですが、送付されている資料の中に事務局から説明があった今月上旬の評価部会でしたっけ、そのときに点数をつけて、それを全体的に総評した私のA4判の半ページぐらいのコメントが総評ということであるのですけれども、その中にも、今、杉山先生がご指摘された点数が低いところの指摘はしつつも、全体的には運営状況として非常に頑張っておられると評価をしましたということ。

確かに気になるポイントではあるのですが、トータルで見たときに、そこを補って余りある業務をなさっているなということがありまして、高野個人は大学教授なので、6割取れていたら一応合格なので、大学では、60点を下回っていたらちょっとなと思うのですけれども、自己評価にしても、委員評価にしても、区の担当者の評価にしても60点を下回っている項目はなかったと思いますので、全体的な状況としてはオーケーではないかなと評価をしたことになります。

そのほかの委員の方、いかがでしょうか。では、どうぞ。



○杉山委員       今の点なのですけれども、地域のネットワークなどの連携という、千代田区の場合はインフォーマルなボランティアや組織づくりなど、そういうところがなかなか厳しいと常々活動を見ていると思いますし、そういったところでの難しさやコロナのことでの難しさということがあるのかなと思いますので、今、高野先生がおっしゃったような評価でよろしいのではないかなと思います。

○高野会長       ありがとうございます。そのほか、いかがですか。特にないようでしたら、ここの部分に関しましては、評価部会のほうでかなり細かく時間をかけて状況を聞き、書類も拝見し、点数をつけて今日の資料に至っているということで、特にこれ以上議論がないということであれば、次に移りたいと思います。ご協力ありがとうございます。

それでは、次の議事の（２）に移ります。「令和４年度高齢者あんしんセンター事業計画について」なのですけれども、これは両高齢者あんしんセンターから説明していただいた後、質疑を行います。

事業計画や要点項目についての説明と事例及び特に力を入れたいことや、話しておきたいことについて高齢者あんしんセンターから説明をしていただきたいと思います。両方のあんしんセンターから説明していただくと、総括して質疑ということですね。

その前に、参考資料１の「令和４年度千代田区地域包括支援センター運営方針」について、事務局から説明をお願いします。

○赤石澤  
相談係長       では、参考資料１の「令和４年度千代田区地域包括支援センター運営方針」を御覧ください。こちらが、１の「運営方針策定の趣旨」にもありますとおり、介護保険法の規定に基づいて、千代田区として地域包括支援センターの地域支援事業に関する基本的な考え方や理念などをまとめたものになります。

方針の策定に当たりましては、区の地域福祉計画や介護保険事業計画、厚生労働省からの通知などを参考にしております。

令和４年度の内容につきましては、おおむね令和３年度からの変更はございませんが、生活支援体制整備事業においては、これまで生活支援コーディネーターとの連携について明記をしておりました。来年度につきまし

では、新たな体制で生活支援体制整備事業をスタートさせることになりまして、生活支援コーディネーター業務をかがやきプラザ相談センターのほうに委託することにしております。

例年同様、コーディネーターとの連携を図っていただきますが、地域包括支援センターの直接業務ではなくなるために、生活支援体制整備事業の項目は削除いたしております。

この運営方針に基づいて、両高齢者あんしんセンターには事業計画を作成していただいております。今回は事業計画をご審議いただく際の参考資料として添付をさせていただきました。

説明は以上になります。

○高野会長        それでは、「令和4年度高齢者あんしんセンター事業計画について」ですけれども、まず、高齢者あんしんセンター麴町さんのほうから説明をお願いしたいと思います。

○高齢者あんしんセンター長        では、あんしんセンター竹内よりご報告いたします。

まずは、今年度、令和3年度を評価していただきまして、令和4年度も高齢者あんしんセンター麴町の運営を東京栄和会にお任せいただいているということで計画を作成させていただきました。運営方針に沿って作っているつもりでございます。皆様、既にお目通しいただいていると思いますので、本当に簡略してお伝えさせていただきます。

資料2-1を御覧ください。1ページ目になりますが、麴町地域の特性が書いてありますけれども、高齢者人口が5,985人、一人暮らしの方が2,181人と、約4割の方が一人暮らしをされています。高齢者のみ、ご夫婦のみ、あるいは、きょうだいという方が2,250人ということで、麴町地域におきましては、ほぼほぼ若い方と暮らしている高齢者が少ないと言えるかなと思います。

では、事業計画になります。2ページ目を御覧ください。

包括的支援事業の第1号介護予防支援事業でございます。こちらも令和3年度に引き続き、令和4年度も行っていく予定ですが、今、コロナ禍におきまして、歌のボランティア活動が休止中となっているのですけれども、こちらは令和4年度再開を目指して、感染予防に気をつけながらやっ

ければとは思っております。

続きまして、②の総合相談支援業務でございます。こちらも事業計画の中で、やはり高サポ（相談センター）と連携を図りながら行っていきます。今、毎日午前・午後と当番制を設けて、いつでもタイムリーに相談を受けられる体制は作っております。

続きまして、3ページ目の権利擁護業務でございます。考え方、体制につきましては特に変わりはありません。事業計画ですけれども、こちらに記載があるのですが、8050問題から虐待につながるケースが増えております。こちらに関しましては、千代田区でもひきこもり支援ということで、令和3年3月から、ひきこもり相談窓口が開設されるということですので、こちらの窓口と連携を図りながら行っていきたいと思っております。

あとは、今、銀行や郵便局から連絡相談も増えていきますので、迅速に対応してまいります。

続きまして、④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務でございます。こちら事業計画を御覧いただきまして、ちよだケアマネ連絡会の委員とはなっておりますが、こちらが今コロナ禍において、この連絡会が中止になっておりますので、こちらに関しては、この連絡会に来年度は再開に向けて確認をしていきたいと思っております。

あと、地域の介護支援専門員から、麴町エリアは一人ケアマネジャーが多い地域でございまして、毎日のようにご相談いただいております。今ケアマネジャーさんのモニタリング訪問に同行させていただいて、今後も支援の方向性をともに考えていきたいと思っております。

続きまして、⑤の在宅医療・介護連携推進事業でございます。こちらも事業計画になりますけれども、退院カンファレンスは今コロナ禍においてZ o o mで行われていることも多いので、Z o o mでの参加という形で行っていききたいと思っております。

続きまして、⑥認知症総合支援事業でございます。こちらも事業計画におきましては令和3年度とほぼ同じでございますけれども、認知症サポーター養成講座の開催につきましては、介護者教室とコラボして行っていききたいと思っております。

また、令和4年度から麴町におきましても、高齢者見守り相談窓口を受託することになっておりますので、見守り相談の担当職員と連携を図って地域に出向き、また、認知症カフェ、本人ミーティングの企画・運営を行っていきたいと思っております。

続きまして、(2)多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築でございます。こちらは先ほど評価の中で少し点数が低いとご指摘があったところではございますが、やはりコロナ禍において、いろいろな研修や会議が中止になっている形で、なかなかコロナ前に比べると関係機関の方と顔を合わせる機会も減ったなというところで、少し自己評価を低くつけさせていただいております。

こちらにつきましても、令和4年度に関しましては、コロナの状況にはよると思いますが、Z o o mなどの会議にも積極的に参加していきたいと思っております。

続きまして、(3)地域ケア会議の実施でございます。こちらが計画のとおり、3種類の地域ケア会議を令和4年度も滞りなく行っていきたく思っております。

続きまして、(4)の任意事業でございます。事業計画を見ていただきまして、令和4年度も介護者教室を計画しております。令和4年度1回目に関しましては、管理栄養士を講師に呼び、教室を開催する予定でございます。

続きまして、②介護保険制度に関する情報提供でございます。こちらもあんしんセンターの開設時間は、当番を設けておりまして、いつでも介護保険の申請の受付はできる体制を整えていきます。

続きまして、(5)介護予防支援でございます。こちら介護保険法にのっとり、滞りなくアセスメント及びケアプラン作成、評価を行ってまいります。

続きまして、(6)区独自の委託事業でございます。事業計画にあるとおりで、また令和4年度も食事支援サービスのアセスメントに関しましては高齢者総合サポートセンター（相談センター）の職員と分担しながら行ってまいります。

続きまして、②高齢者いきいき相談（電話訪問）でございます。こちらでも未登録者で安否確認や、人と話すことで認知症の予防になると思われる方に積極的に利用の案内をしていきたいと思っております。

続きまして、③福祉住環境整備訪問業務でございます。こちらでも事業計画のとおり行っていきたいと思っております。

続きまして、④高齢者見守り相談窓口業務でございます。こちらは麴町で、先ほどお伝えしたとおり、令和4年度からの開始となっております、社会福祉士と看護師の2名体制で行う予定でございます。既に、あんしんセンター神田さんのほうで先行して行っていますので、相談させていただきながら一緒に行っていければと思っております。

続きまして、(7) 高齢者あんしんセンター麴町独自の取り組みでございます。こちらでも全般的に見守り相談担当職員が2名加わることで、さらに量と質を上げて、厚みのある取組ができるのではないかと考えております。

続きまして、(8) 個人情報保護の取組につきましては、事業計画にあるとおりでございます。

最後に、コロナ禍における取組ということで、運営方針には記載がなかったのですが、こちらの事業計画には記載されていないのですが、口頭で補完させていただきます。

一刻も早いコロナ禍が収束することを願ってはいるのですが、このままコロナ禍が進んだと仮定したときに、麴町として3点を重点的に考えています。

まず1点は、コロナ禍以降様々な事業が休止・延長されていまして、その中で現在介護予防教室や介護者教室を開催しますと、皆さんが出かけるところがないせいか、すぐに定員に達することが多いところが今現状ですので、来年度も、もしこのような状況であれば、できるだけ平等に、偏った方に参加が集中しないように配慮して、受付をしていきたいと思っております。

2点目でございます。教室や相談などで関わりのある高齢者にコロナワクチン接種の状況をお聞きして、もし接種の予約が難しいだとか、接種会場に行くのが少し難しいのだよというお話があれば、同行案内をしてまい

ります。

3点目でございます。先ほどからお伝えしている、会議や研修が、遠隔会議システムをご利用することが多くなれば、こちらに関してはICTの環境整備に法人としても努めてまいりたいと思っております。以上です。

○高野会長           では、続けて神田のほうで、お願いします。

○高齢者あん       高齢者あんしんセンター神田、センター長川島です。よろしくお願いい  
しんセンタ       たします。

一神田川島       資料2-2です。運営方針、昨年度から④番を付け足しました。「新型コロナ  
センター長       ウイルス感染症の影響を受けやすい高齢者の生活課題を把握し、相談  
支援の旗振り役を行う」。非常にここに重きを置いて1年間業務に当たって  
まいりましたが、2022年度もここを重点的に行っていけたらなと思っ  
ております。

今、竹内センター長が全ての事業についてご説明してくださったので、あんしんセンターはやることがたくさんあるのだなということは、皆さんご理解いただけたかと思うのですけれども、神田のほうは、一番後ろの12ページ、(9) コロナ禍での事業継続の取り組み、ここに全てが含まれているつもりで作成しておりますので、ここを中心にご説明させていただきます。

まず、考え方といたしましては、新型コロナウイルス感染症が高齢者にもたらす影響は、体も精神も生活環境の広範囲にわたります。生活不活発は自立度の低下（フレイル）につながることも危惧されております。新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けやすい高齢者の支援のため、さらには社会活動の縮小がなされることが、遅れがちな地域づくりが滞ることなく前進するため、高齢者あんしんセンター神田の各事業展開において、「コロナとともに」という視野を入れた発達の転換が求められております。今までと同じではいけない、どんどん発想を転換していかなければいけないと痛感した、この数年でございました。

では、ウのところでは、まず①番、「高齢者見守り相談窓口業務担当者」と連携し、孤立防止を軸としたフレイル予防支援、総合相談支援を進めていく。これについては、高齢者見守り相談窓口業務は3年目を終えようとし

ておりますけれども、やはり1年、2年、3年と年を重ねるごとにコロナの影響を受けた高齢者の掘り起こしということが進んでおります。

その中で特に今年1年は、評価部会でも申し上げましたが、すごく足腰が弱ったのですというご相談を直に受ける機会が多くございました。ですので、やはり見守り相談窓口業務担当者が掘り起こしてくる情報が非常に新鮮ですし、私たちの気づかないところを突っついてきてくれておりますので、ここに力を入れていけたらと思っております。

②「新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者虐待が増加することを予測し、世帯支援に主眼を置く」。これも虐待対応は日々行っておるのですけれども、コロナを原因に虐待が増えてはいないのですが、少し性質が変わってきているという実感があります。

例えばテレワークでお子さんが外出しなくて、お家で親御さんと一緒に過ごす時間も増えたり、また、神田地区に特化して申しますと、テナントビルを貸していらっしゃる、そこで生計を立てていらっしゃる高齢者がいますので、テナントビルさんは結構出てしまうのですよね、コロナで、飲食店も会社も。

そうすると、今までどちらかというが高収入の層であった高齢者が、たちまち生活困窮に陥るといふ相談も入ってきておりますので、やはりコロナの影響で、どのような虐待事案に変化しているかということを見据えながら、そして本人だけではなくて、そこには家族も一緒に住んでいたりする場合がございますので、世帯支援を主眼に置いていきたいと思っております。

③番です。「新型コロナウイルス感染症による影響で退院カンファレンスが開催されにくいことを踏まえ、医療機関と密に連携し効果的な退院調整を実施する」。これは、一部では少人数ならどうぞとおっしゃってくださる病院も徐々に出始めてはおるのですが、やはりなかなかそこがまだ壁となっております、電話でのやり取りが多ございます。

ですので、ご本人の状態が、ご家族も私たちも見えない中で必要な準備は何かということを適切にアセスメントして、退院調整、退院の環境を整えていく難しさはあるのですが、病院関係者さんと連携を密に取ることで、

その辺をうまく進められているとっておりますので、ここも引き続き力を入れていきます。

④番、「『神田で元気にながいき教室』や『神田はあとカフェ』等で地域関係者に必要な情報を届け、間接的な孤立防止支援および世帯支援を推し進めていく」。「ながいき教室」は、この後また申し上げますけれども、評価部会でも申し上げましたが、区境の方でも通いやすいように、区の中心部で月1回、あと、神田地区の端っこのほうの会場でもう1回で、月2回「はあとカフェ」を開催します。

それも同じタイプのものではなく、全く別の目的を含んだカフェにしておりますので、通いやすいほう、もしくはご自分に合うほうを選んでいただいて、足を運んでいただけるような準備を次年度もしているところでございます。

次、⑤番「ICTを活用した地域活動に参加する」。これは、職員の研修等も、なかなか対面では行えませんが、研修センターさんが開催するもの、もしくは外部のものも含めまして、Zoom等を活用した地域活動に参加する、研修等に参加して、自分たちの知識のブラッシュアップができていったらいいなとっております。

⑥番「行政機関が発信する介護保険最新情報および臨時的取り扱いを正しく理解し利用者の不利益にならない介護予防ケアマネジメントに努める」。日々、以前ほどではないのですが、行政機関から発信される通知というものが結構届くものですから、それらを正しく読み解いて、それに沿って動いていくように努めております。また、それを全ての職員が同じ共通認識で動けますように朝礼等を活用しております。

⑦番「社会的交流が減少した高齢者に対し、電話訪問の活用を進めていく」。神田地区は、地区の特性上、電話訪問を利用したいという方が非常に少ないことが課題なのですが、やはり、この社会的交流が減少した今の時代だからこそ、電話訪問を進めて、そこから様々な支援に入っていくようにできたらなとっております。ここ1、2か月で1人、2人ぐらいは増えてきていますので、今後も、もう少し人が増えていけたらと思っております。



⑧番「高齢者見守り相談窓口業務担当者の切れ目ない訪問を継続し、みずから発信しにくい環境に置かれている高齢者に対し専門的・多角的アセスメントを行う。継続的支援が必要な場合はかがやきプラザ相談センターと役割分担し、必要な社会資源に繋げる」。

定期的に見守っていきたいな、いく必要があるなという方が時々発生するのですね。ただ、見守りの担当者がそれを抱えてしまいますと、次に進んでいけませんので、それらを総合相談化して、あんしんセンターのほかのメンバー、もしくは相談センターと適切に役割分担をして、そのままにならないように、きちんと継続的な支援につながるよう見守りの役割分担をしていきます。

⑨「活動が縮小傾向にある町会に向け、高齢者あんしんセンター神田のPRや『千代田区での暮らしをひろげる』ことを目的とした出張型の『神田で元気になるいき教室』を開催する」。これは2022年で神田あんしんセンターが一番力を入れようと思っているところです。

見守り相談員2人が、この3年間で築いた地域ネットワークというのは非常に貴重な材料でして、そこから各町会長さんのお声を聞きますと、町会活動が全然できていない、集まりたいけど集まらない、そういったお声を非常によく聞きます。

ですので、今までは私たちが場所を決めて、テーマを決めて、そこに区民さん、そのほか包括センターさんをお呼びしていたのですけれども、その町会に向けた、町会が興味のあることを、こちらが出向いて行って「神田で元気になるいき教室」を開催していく1年にしたいと思っております。

早速ですが、5月には西神田町会で、これが1つ実績が作れそうでございます。今、町会長さんを中心に準備を進めているところです。

次、⑩番「第一線で高齢者支援に当たることができるよう、高齢者あんしんセンター神田職員全員が、日々の健康管理に努める」。幸い体調は皆さん、職員皆体調不良になることなく業務に就けておりますが、いつ自分が陽性等になる可能性もある中で、厳重に予防に努めながら仕事をしているところです。本当に日々の健康管理に各自が気をつけて、これからもご利用者さんに迷惑をかけずに仕事が進めていけるようにできたらと思ってお

ります。

あと、少し補足させていただきますと、認知症支援ですけれども、昨年度は個別ケースワークにおいては、たまたま電話を取った職員や、たまたま来所を受けた職員とか、そういった職員で認知症対応をしていたのですが、そこに認知症地域支援推進委員とセットでケースワークをすることで、非常に深みがある多角的な方向性が見いだせる支援につながっている成功例が数例ございますので、極力2人体制で認知症支援も当たれたらなと思っております。

総合相談においては既に看護職、福祉職がセットで動くことが定着化しておりますけれども、認知症についても、このような体制で次年度動いていけたらと思っております。

また、令和3年4月からオープンしたアキバ分室というところがあるのですが、社会福祉協議会の職員さんは職員さんで地域課題について、どのように解決していくかということをご悩まれておまして、うちうちで今後アキバ分室さんとどのように連携していくかということをご悩んでおまして、先日打合せしたところ、コラボで2022年度一緒に地域のために何か催しができるといいねという話をしまして、秋ぐらいを目標にコラボの催しができたらと思っております。

既に2年前から、かがやき大学神田分校という形で社協さんとは連携しているのですが、それとはまた別で今度アキバ分室と意見交換していけたらと思っております。

最後にもう1つ、すみません。見守り相談窓口についてですけれども、少し戻っていただきまして、資料の10ページですね、①番ですが、令和4年度からは対象者さんの心身状態の変化を「見える化」する目的で、試験的に「事前質問票」というものを活用していこうと、今、相談係さんと連携して準備を進めております。

ただ、見える化を、この質問票を始めてみて、やってみての課題というものも幾つか、恐らく出てくるかと思っておりますので、適宜意見交換する場に参加して、よりいいものにしていき、効果的な見守りになるよう努めていきたいと思っております。以上です。

○高野会長           ありがとうございます。ただいま高齢者あんしんセンター麴町と神田からの説明を頂きました。それを受けまして、質問やご意見がある方は挙手の上でお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

では、藤谷委員から手が挙がりましたでしょうか。ミュートを解除してもらって、ご発言いただければと思います。

○藤谷委員           麴町と神田にご説明いただいたことと関係があるというか、ちょうど今コロナで、コロナというので特に個別の事業ごとに、今、計画しているけれども、様子を見ているなどあったのですが、コロナに関して、年数というか時間はたってしまっているのですが、何かこういう点に注意して今やっている特色みたいなものをご説明いただければと思うのですけれども。

○高野会長           では、両方のあんしんセンターへのご質問かと思しますので、最初、では麴町、神田の順でご説明を頂きましょうか。

○高齢者あんしんセンター長           麴町におきましては、先ほど川島センター長からもお話があったのですが、コロナ禍において高齢者の方が家に閉じこもり、フレイル、認知症の進行、筋力低下、廃用ということが十分に考えられますので、私たちとしては、そういった方々にもし出会えたならば、先ほどの電話訪問なり、感染予防に気をつけながらやっている介護予防教室なり、今できることをご案内して、参加していただいております。

あと、職員に関しましては、2か月に1回PCR検査をしております、あとは、高齢者の方と接するときには、手指消毒、マスク、フェースシールド等で本当に感染拡大防止ということに気をつけながら接触、相談対応をさせていただいております。以上です。

○藤谷委員           ありがとうございます。

○高野会長           神田のほう、補足というか追加であれば、かなりご説明いただいたのですけれども、お願いします。

○高齢者あんしんセンター長           藤谷先生、ご質問ありがとうございます。大体竹内センター長がおっしゃったことと一緒に、センター長をしております、今の時期非常に悩ましいのが、職員1人1人がコロナに対しての怖がり方、平たく言う怖がり方というのがまちまちなのですよね。これを一律にしようとしても、なかなか難しく、ただ、エッセンシャルワーカーだから行かなければ

ればいけない、やらなければいけないという使命感と、やはり感染が怖い  
な、自分はそうなりたくないなという恐怖心のはざままで、ここ数年仕事を  
しているなど実感しております。

ですので、誰が正しい、誰が正しくないではなく、職員1人1人の思い  
に耳を傾けながら、なるべくいってらっしゃいと送り出すようにはしてお  
ります。すみません、質問の答えになっていないかもしれませんが、その  
ようなことに注意して運営しております。

○高野会長            ありがとうございます。藤谷委員、よろしいですか。

○藤谷委員            はい、ありがとうございました。

○高野会長            そのほか、いかがでしょうか。

○前田委員            前田です。住福祉環境の整備の訪問業務についてお尋ねしたいのですけ  
れども、私の担当地域で80代後半の方で在宅、そして、お家の中で転倒  
して入院、その入院が長期化して、そのまま施設に入所になる方もいらっ  
しゃいますし、なかなかお家に戻って来られないような方が、この2年間で  
大変増えているのですね。

訪問をしてくださっているということですが、どういった方を対象にと  
うか、何か少し絞り込みをして訪問業務というのはやっていたらしゃる  
のでしょうか。お願いいたします。

○高野会長            福祉住環境整備のことですか、今のご質問は。

○前田委員            そうです。神田だと9ページの③、そして麴町だと7ページの③ですね。  
このところに関してというか、訪問体制とか、どのようにされている  
のかなというところを伺ってみたかったところです。

○高野会長            福祉住環境整備訪問業務に関して、対象をどうしていくか、こういうご  
質問かと思えます。では、今度は順番逆で、神田のほうから。

○高齢者あん        福祉住環境整備ですよ。

しんセンタ

ー神田川島

センター長

○高野会長            という趣旨だそうです。

○高齢者あん        前田さん、ご質問ありがとうございます。川島です。福祉住環境整備は

しんセンタ 区の制度に沿って動いてはいくのですが、生活環境の課題について、ご相  
一神田川島 談に乗っていくのですが、ご自宅も工務店さん等を連れて一緒に行って、  
センター長 家屋のご状態等を実態把握して、アセスメントしていくのですけれども、  
ただ、そこを調整して終わりではなく、必ず住環境以外のご高齢者、もし  
くは、そのご家族の生活の課題というものがありますので、住まい環境だ  
けではなく、総合的にその方を見て、ほかにご提案することはないか、は  
たまた住環境整備ではなくて、別の支援のほうを先にしたほうがいいので  
はないかなど、そういったところをご本人に、ご家族にご提案して一緒に  
進めていくように心がけております。以上です。

○高齢者あん 麴町、竹内です。こちらは少し分かりにくいのですけれども、この住環  
しんセンタ 境整備というのは、介護保険で手すりや床材の変更、浴室の床を滑りにく  
一麴町竹内 くするなど、そういうのがあるのですが、この記載があるものは、千代田  
センター長 区独自で、介護保険外で住環境整備をしますよという業務でございまして、  
どういう方が使われるのかといいますと、介護保険の認定を受けていない  
方と、認定を受けている方で介護保険にはない住宅改修をしたい方が利用  
される業務でございます。

ですので、基本的には、この③の福祉住環境訪問というのは、そういう  
対象者の方に訪問しますよと。そのときには業者の方と一緒に行って、一  
緒にご助言させていただいて、やりますと。

また、業者も2者見積りをするようになっていまして、2つの会社の見  
積りを取って、区のほうで選んでいただくという業務でございます。

○高野会長 ありがとうございます。住環境整備のことなので、基本的には相談があ  
った方、何らかの形で、回り回ってというケースもあるかもしれませんね。  
連絡があった方が対象だということですよ。そういう趣旨だそうですが、  
よろしいですか。

○前田委員 分かりました、ありがとうございます。訪問などのときに不安を抱え  
ていらっしやらないか、そういった生活の周りのことにも心がけて質問さ  
せていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○高野会長 そのほか、いかがでしょうか。特にないようでしたら、次の議事に移り  
たいと思います。

続きまして、議事の（３）番ですね、「地域ケア会議について」に移りたいと思います。地域包括支援センターは、地域ケア会議で個別の会議から見えてきた、取りまとめた地域課題をこの協議体へ上げることとなっております。当協議会でも各地域課題について議論を深めていきたいと思っておりますが、まずは両あんしんセンターから介護予防の地域ケア会議の感想及び圏域別の地域ケア会議で議論された各圏域の地域課題等についてご説明ください。

その後、皆様が地域で活動、生活していく中で感じている地域課題について気になる点などございましたら、ご質問・ご意見を頂くという形で進めたいと思います。

では、まず地域ケア会議について麴町のほうからご説明をお願いします。

○高齢者あんしんセンター麴町竹内センター長  
では、資料３－１をまず御覧ください。こちらは会議録で、日時は１月７日１３時半から１６時でいいのですが、あんしんセンター麴町・神田合同で行っていきまして、１回のみなので場所はかがやきプラザで行っていきすので、ほほえみプラザは削除していただければと思います。

この会議をあんしんセンター神田・麴町地区を代表してご説明させていただきますと、おのおののあんしんセンターで要支援のケアマネジメントを両センター合わせて４００件近く日頃やっております。そこで、あんしんセンターにはいない職種、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士さんにご参加いただいて、我々のケアマネジメント力を上げるという意味合いで１事例ずつ出して、ご助言頂くという会議をやりました。

感想、課題ではございますが、要支援の方で、我々としてはせつかく３職種の方にアドバイス頂くのだからと思って、要支援の中でも少し重度な、３職種が関わりある事例を選んでしまっていることもありまして、そうすると、そういう方々はなかなか向上が難しく、現状維持が精いっぱいの方なので、助言頂いても、毎年やっていて、１年後評価したときに、なかなかADLが上がったとか、そういうことが見受けられないので、課題としては、いま一度事例を挙げる方、要支援の方というよりも、要支援の一步手前の方、短期集中サービスなどを利用されている方を事例として挙げたほうが、介護予防としての意味合いが強くなるかなと思っています。

あとは、この会議は本人抜きで、関係者だけで話し合っているので、場合により本人にも出席していただくと、ご本人も自分のためにこれだけ話してくれているのだなど、では頑張ろうかなと思っていただけるかもしれないので、その辺は来年度の検討としていきたいと思っております。

続きまして、圏域地域ケア会議のご説明をさせていただきます。資料3-2を御覧ください。これも字が細かくて、どう見ればいいのかという資料で大変申し訳ありません。

日時が、令和3年12月27日に行っておりまして、出席者がケアマネジャー中心に27名で行いました。コロナ前までは50人、60人でやっていたのですけれども、密になるかなと思って、職種を絞って行いました。

まず、あんしんセンターから個別の地域ケア会議のお伝えをしまして、この会議までに今年度13件行っていました。個別の地域ケア会議というのは、いわゆる困難ケースを関係者でどうする、ああするという、どうしたらいいのだみたいな話をしている会議なのですが、13事例を全てお伝えしました。

13事例はどんな事例が多かったのかと申しますと、要介護1・2の方が多く、独居の方が多い、女性が多い、認知症、精神疾患、あるいはパーソナリティ障害という方が多かったです。

要介護1・2が多いのはなぜなのかなと思ったのですが、恐らく今、今年度4月に番町ハウスもできて、要介護3・4・5の人が割と施設のほうに入られて、在宅では少なくなっているのかなと考えております。

このようなケースを基に、まず検討班、A・B・Cと分かれまして、1つ目は、この個別の課題から、こんな制度やサービスがあればよいと思うものを意見としてグループワークで挙げていただきました。

まずA班から出たのは、専門職が入っていないような人には地域住民で見守ればいいのかとか、ライフラインで顔の見える関係づくりもいいねと。認知症サポーターの上手な活用が必要ではないかと。あとは、今回委員でご参加いただいているのですが、民生委員さんや町会との連携が必要なのではないかという意見が出ました。

この後、A班として2つ目の議題は、令和4年度から開始となる生活支

援体制整備事業と、麴町で受託する高齢者見守り相談窓口に期待することというテーマでグループワークをさせていただきました。

特に1つ目の課題を布石として打ってやったという思惑はなかったのですが、課題①から出たことに対して課題②も事業で、どうやったらカバーなどができるのかということの話にたまたま持っていくことができまして、A班としては、この事業の中で学生さんがボランティアすることで単位取得ができるようになればとか、企業側もボランティアをすることでイメージアップになるのではないかと、そうすることで地域住民も安心して暮らせて、お互いWin-Winになるのではないかみたいな、そんな意見が出ております。

また、タワーマンションだからこそできることもあるのではないかとということで、見守り相談窓口としてマンションの自治会や総会に参加してはどうかとか、貴重な意見がグループワークの中で出ました。

そういったこともあるので、来年度、生活支援体制整備事業でも、やはり大学や企業へのアプローチというのを推し進めていく必要があると思っております。

B班になりますけれども、こちらで最初の課題で出た意見としましては、やはり認知症や精神疾患の方が多いということで、そういった方にも対応できる傾聴ボランティアさんがいればいいのではないかと。

また、通院介助が必要になったときに、ケアマネジャーやあんしんセンターが担うことが多いから、通院支援制度というものがあればいいのではないかという意見がありました。

2つ目の課題の中で、ざっくりとした意見なのですが、無料訪問システムが構築されればいいのではないかとということと、訪問する人の育成も必要ではないかという意見が挙がっております。

最後、検討班Cで出た意見です。1つ目の課題に対しまして、やはり見守る側と利用者双方に機器、ICTですかね、そういったものでつながることで見守りをして、将来に向けてになると思うのですが、そういったものの活用が必要でしょうという意見が出ました。

あとは、ケアマネジャーさんが中心に出たせいか、今、介護職員処遇改



善加算があるのですけれども、ケアマネジャーも月1回の訪問では済まないケースも多々あり、月に何回も訪問していることもあるので、そういったときは加算をつけてほしいと。ケアマネジャーの負担軽減につながるものもあればいいという意見がありました。

今、ケアマネジャーさんは大体1人で35件前後を持っているのですが、そういった加算があれば、1人30件などに減らして1件を手厚くできるのではないかという意見が出ました。

その後の課題②におきましては、通院同行という面ではボランティア制度でできればいいのではないかということで、やはり生活支援体制整備事業に向けての期待が大きいなど感じております。

あとは、マンション管理会社や管理人へのアプローチが必要でしょうということで、こちらは高齢者見守り相談窓口事業でやってほしいという意見がありました。

また、あんしんセンター便りの活用、ポスティングも必要ですねという意見を頂いております。

この会議の後にアンケートを皆さんに頂いて、そのアンケートの中でも、やはりマンションの理事会はすごく権限があるから、理事長と信頼関係を作って、マンションに入り込んだらいかがでしょうかといった貴重な意見を頂きましたし、今回、麴町地域で活動しているケアマネジャーけれども、事業所が新宿区など他区にあるケアマネジャーさんも参加していただいて、新宿区や、ほかの区と比べてのご意見も頂けたので、皆さん勉強になったという声もありました。

以上です。ありがとうございました。

○高野会長           では、続けてお願いします。

○高齢者あん       神田のあんしんセンターです。竹内センター長が予防型の地域ケア会議  
しんセンタ       は流れをご説明してくださいましたので、私のほうは、次年度に向けての  
一神田川島       課題等を申し上げます。

センター長       3年間同じやり方をやってきまして、正直申しますと、今までと同じやり方は発展性が得にくいので何らかの変化が次年度からは必要だと感じて  
おります。

方法といたしましては、例えばケアマネジャーさんに、この地域ケア会議を開放していくのか、はたまた今までの形のまま、やりようを変えていくのか、または本人参加型で行くのか、歯科衛生士・管理栄養士・理学療法士に限らず、もっと違う職種を呼んでやってみるのか、いろいろ思い浮かぶのですが、やはり一番は、この場で申し上げるのは何なのですが、千代田区が予防ケア会議で何を得たいのかという行政のすり合わせがいま一つ踏み込めていないということを感じております。

なので、やはりそこから次年度は始めていかないといけないなと思っております。

続きまして、圏域別地域ケア会議です。資料3-3でございます。資料を先にご説明する前に、ここ1、2年の神田の個別地域ケア会議の傾向を少しご説明させていただきます。

令和元年度、令和2年度ぐらいまでは、個別地域ケア会議の件数は年間大体10件ぐらいございました。ただ、おとしより去年、去年より今年というふうに年々減少傾向で、今年度は約5件程度です。

理由を考えたところ、コロナの影響はもちろんあるのですが、この前、評価部会でも申し上げましたが、この個別地域ケア会議に上げるまでもなく、地域ネットワークで対応、もしくは解決できていることが増えているということも要因の1つなのではないかと評価しております。

個別地域ケア会議といいますと、大体困難ケースを対象として開催しておりましたけれども、ここから抽出された地域ケア課題、地域課題を圏域に上げていくと、あまりにも話が広がり過ぎてしまって、地域課題を圏域で話し合うにも、本当にみんなが、これはどうしたらいいのだろうねというぐらい、なかなか効果的な、実現可能な、政策につながるような意見がずっと出てこなかったというのが実際でございました。

ですので、やはり令和3年度、同じやり方をしてもいい効果は得られないねということで、少しやりようを変えてみたのが今年度でございます。資料3-3でございます。

どのように変えたかと申し上げますと、お呼びする方を広げ過ぎずに、地域の主任ケアマネジャーさん及び民生委員さんと、社会福祉協議会の職

員さん、あと、あんしんセンター、相談センターに限って開催してみました。32名参加しております。

やはり個別地域ケア会議で必ず複合的課題の中に入ってくるのが、虐待であったり、8050であったり、認知症であったりするものですから、呼び出した方に千代田区、神田の現状を知っていただくために、議題のところですけども、報告者①【虐待対応報告】を虐待担当職員が行いまして、②番が【認知症対応報告】、推進員がケース等のご説明をいたしました。あと③は毎年恒例【ちよだ個別地域ケア会議】で出た地域課題の傾向等を主任ケアマネジャーがご説明しております。

グループワークですけども、何を話し合ったかといいますと、会議内容の(2)のところですね、1行目「地域の変化と高齢者の孤立」「課題を抱える家族への支援」、これが令和3年度に挙げた地域課題でございましたので、これらを踏まえて、高齢者が必要な情報に巡り会うにはどのような工夫が必要か、家族支援においてどのようなネットワークを広げていくことが必要かということをご参加者の方にグループワークをしていただきました。

その結果ですけども、報告のところの3行目からです。「グループワークからは高齢者や家族の支援に対してもインターネットの活用促進が声に上がりました。高齢者に対してはIT機器の操作教室の充実やIT機器の貸出しなどの声も上がりました。また選択的に孤立を選ぶ高齢者や家族支援に対して、より社会資源の情報が得やすい工夫やITを活用して同じ地域の方々とつながる仕組みづくり等もあつたらいいのではないかと声が上がりました」。

せっかく、ここでいい意見が挙がってきたところで、時間の都合上、終わりになってしまったのですけれども、次の年も同じメンバーで第2弾として、引き続いた形でできればなと思っております。

このところ毎年毎年メンバーを替えてしまっている傾向がございましたので、せっかくいい形で終わりかけたところだったので、次年度も第2弾のような形で大きくメンバーを替えずに、内容を変えずにやっていけたらという目標でおります。以上です。

○高野会長            ありがとうございます。今、両センターからご報告いただきましたが、特に地域課題、こういうポイントが見えてきたというところに関してということになろうかと思えますけれども、ご意見やご質問などがある方は、ぜひお願いしたいと思えます。では、杉山先生、お願いします。

○杉山委員            ご報告ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、社会的孤立がすごく今テーマになって、皆さんご承知の点だと思うのですがけれども、高齢者見守り相談の3年間の実績というか、どのぐらいの方に訪問に行けているのかということと、あと、何件ぐらいの方が継続的に見守ったほうがいいのか、大体の数でも構わないのですが、それを教えていただきたいのと。

もう1つ、歯科や精神の課題というのは、一般の総合相談だと二の次、三の次になりやすいということかと思えます。歯科のことまで、歯科の先生も今日後でお伺いしたいと思うのですがけれども、後回しになりやすいみたいなどころがあったりするのかなと思うのです。テーマの中にそういったものを含めているというのがすごく、介護予防ちよだ個別ケア会議の事例の中にそういったことが挙げられているのですばらしいなと思えました。歯科や精神、そういったところに課題がある方たちに対して、地域課題の中では無料で訪問したらどうかとか、そういったことも出てきていましたが、具体的に何か方策として考えられるようなことはあるのかなというのを伺いたいなと思えました。

○高野会長            では、それぞれにご発言、ご説明いただければと思います。見守り訪問の内容と、歯科口腔と精神疾患等への対応ということかな。では、川島さんから。

○高齢者あん            神田です。すみません、手元に今、資料がないものですから、大体1年  
しんセンタ            間で3,000件ですかね、対象者で3,000件でございます、見守り  
一神田川島            相談窓口業務の。インターホン越し、もしくは玄関で実際ご本人と会えた、  
センター長            話せたを含めると6割ぐらいが達成できております。すみません、質問  
を忘れてしまったかもしれない。

○杉山委員            その後で、継続的にその人は見守ったほうがいいのかというのは何件  
ぐらい。

○高齢者あんしんセンター長 神田川島 そうですね。1か月ごとに相談センターの職員と意見交換をする場を設けているのですけれども、そこで2、3人ですかね、この人が気になるのだよねということで、じゃあ、どっちが引き続き行こうか。相談センターがいきなり行ってもびっくりするから、もう少しあんしんセンターで行こうか、見守りでいこうというような話合いをしておりますので、2、3人とお考えいただければと思います。

○杉山委員 ありがとうございます。あと、歯科と精神のこと、地域課題としても取り上げられたりしているようなので、何か具体的な方策がありますか。見守り相談窓口から見守っていく人たちも、もしかすると、そういう何らかの課題が、あるかもしれません。入り口でしかお会いしていないと、そこまでどういう課題があるかというのは分かりにくいと思うのですが、何かが必要な方というのは、そういう精神の課題があったり、認知症の課題があったりという方が多いのかと思います。

でも、まだサービスにつながっていない状況が想定されると思うので、見守りで発見してきた後のつなぎ先というのですかね、そこがやはり、見つけるだけ見つけただけでは、なかなか難しい。もちろんサポートセンターがやっているような電話相談というのもあると思いますが、実際その方がどこかによりどころというか居場所があったり、この人にだったら自分の心の内を伝えられるとか、強く多分こだわりがある方、少し妄想的な方などというのは人との関係が難しかったりするもので、より孤立的になりやすいと思います。そこら辺の課題が今後、今は具体的にないのかもしれないのですけれども、もっと地域の中に作っていったり、見つけられていくといいなと感じました。

○高齢者あんしんセンター長 齋町竹内 歯科と精神ということなのですけれども、歯科のほうは、この介護予防の個別ケア会議の中で出た意見としましては、齋町の事例は、歯医者さんに行きたくないのだ。だけど、歯はいろいろ治療が必要な方だったので、ここで出た助言としては、訪問歯科を利用してはどうですかというご意見を頂きましたので、今そちらの調整をしていきたいと考えています。

精神疾患に関しましては、個別の地域ケア会議の半分が精神疾患かパーソナリティ障害があるなと思っているのですけれども、診断を受けている

方もいれば、診断を受けていない方もいるのですが。

多分若い頃からそういうご病気があったと思うのですが、若い頃は何か人に頼らなくても自分で、人に迷惑をかけなくて生活されていたのですが、65歳以上になって、足腰が弱って筋力が低下したり、廃用になったり、あるいは認知症が出てきたりというところで、初めてあんしんセンターが関わるか、介護保険の認定を受けてなどという形で、そういう方が表に出てきて、我々としても、そういった方の対応に右往左往する場面が多いと思っはいます。

65歳までは保健所がいろいろ対応や相談などをしてくれるのですが、65歳以上になると、じゃあ、あんしんセンターでよろしくねという感じになるので。そこは、在宅支援課にも保健師さんがいらっしゃるので、在宅支援課の保健師さんとも協働してご意見を頂きながら、どう対応すればいいかというのは日常的に悩みながらやっています。

○杉山委員           ありがとうございます。

○高野会長           今の件でもいいです、関連してでもいいです。ほかにご意見などがあれば、お願いしたいと思います。特によろしいですか。

○加賀委員           では、いいですか。神田地区に関して、私は神田なのでお伺いしたいのですが、このコロナ禍で約2年半、一番のポイントはお祭りが飛んでしまったということなのですね。町内会のお付き合いというのは、神田地区に各町内会がたくさんあって、お祭りを通して会長さんや、そういった接点があったのですが、このお祭りが飛んだということがとても今回孤立化したという条件の1つだと思います。

それで、見守るほうは、こういったICTやインターネットの活用が十分できるのでしょうけど、見守られるほうは無理だと思います、まずこのIT機器は。ですから、私は、らくらくホンみたいな割と簡単な機器で、テレビ電話などもできますので、そういった方法のほうがいいのではないかと思うのですが、パソコンやPCやなんかは絶対無理ではないかと思うのですね。

ですから、やはり対面、私は思うのですが、高齢者の方は対面で接することが大切だと思うので、1人1人の意見が全部違いますので、対

面式にやるのが一番よろしいと思います。それには、らくらくホンは対面ができますので、そういった活用もいいのではないかと思います。

○高野会長

ありがとうございます。ご助言を頂いたという形でしょうか。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

では、時間の都合もございますので、皆様からのご意見、ご質問は、ここまでということにさせていただきたいと思います。

一応私から、この地域ケア会議に関して若干のコメントをするように当初から予定されておりました、本当はこの運営協議会が地域ケア会議の国の要望などというところの個別ケア会議ではなくて市町村レベルの会議で、地域課題を集約して、こういう解決方法を取ろうではないかということを取りまとめる場ではあるのですけれども、まだそこまで明確な地域課題、焦点化ができていないよなという気もいたしますし、今日出てきたようなお話というのは、確か千代田区では生活支援体制整備事業が衣替えをして運用されるということですので、この地域ケア会議の市町村レベルの会議と生活支援体制整備事業のいろいろな事業がかなりリンクするところがあると思いますので、ぜひ事務局のほうからも生活支援体制整備事業のほうを動かしていくときに、今日出てきたような課題をですね。地域課題というか、ひとまず簡単に言うと、社会資源の不足、制度外の社会資源の不足はどういうものがあるのかということだと思っておりますので、それで出てきた話題について、引き継いでいただきたいなと思っております。

もう1つは、冒頭の評価結果の確認のところなどでは、地域ケア会議については、いわゆる評価点数が割と高く出ているのですが、あそこの評価というのは、やっているか、やっていないかの評価なので、やっていますねということで評価点は高く出ているのですけれども、国の要望で言うところの個別会議にしても、市町村レベルの会議にしても、国が示しているような実施要綱のようなわけには、なかなか行っていないところが千代田区の場合あると思っています。

前半申し上げた多職種連携については少し弱点だよなというところと関連はするのですけれども、これは地域包括支援センター、両センターがということではなく、事務局も含めて個別会議、それから市町村レベルの会

議、若干専門的な話になって恐縮ですが、事務局の方はきっとおっしゃられないのですけれども、保険者機能強化推進交付金の評価指標などでも、実は個別会議の件数がうんパーセントだとうとうだということが問われていたりして、それで評価を高く得たほうがいいというわけでもないかと思うのですけど、例えば少し件数や、地域課題からどうやって実際の政策や施策につなげるのかというところのプロセスなども若干力不足、件数不足のところもあるかと思えます。

改めて事業計画の中間年度ではありますけれども、私としては次の計画期間に向かってでもいいと思っているのですが、地域ケア会議の、川島さんもおっしゃっていた、今までどおりのやり方をしている、なかなか名案が出てこないみたいな話もありましたので、少し国の要綱をもう一遍しっかりと見直すとか、あるいは、先進地のやり方をまねしても大体うまくいかないのですけれども、先進地でどういうやり方をしているのかとか、どういう地域課題の解決方法を取っているのかということ、当然これは我々協議会の責任でもあるのですけれども、その辺を少し次年度にかけて、より効果的な在り方というのを再検討していただきたいと思っています。

以上が私からのコメントということにさせていただいて、次の議事に移りたいと思います。

次の議事は（４）番ですね、『指定介護予防支援業務の一部業務委託状況』についてでございます。事務局から、ひとまず説明をお願いします。

○赤石澤 相談係長      それでは、資料４の「指定介護予防支援業務」一部業務委託状況という資料を御覧ください。

令和３年度第１回の運営協議会以降、新たに委託を行いました指定介護予防支援の業務について、その委託を行った事業所と、その事務につきまして、ご報告を申し上げます。

まず、（１）の委託状況ですね。こちらのほうは、令和２年の１２月末と令和３年、今年度の１２月のデータを上げております。１２月末現在、今年度は麴町が、直接が１９７、委託が２７で、合計が２２４点。神田が、直接１２０、委託３７で、合計が１５７件ということになっております。

次に（２）番、新規事業の委託事業所についてです。今年度、１２月末



現在では、新規の業務委託をした事業所は5か所になっております。麴町地区が1か所、神田地区が4か所になっております。

委託の基準については、番号が振ってありまして、下の囲いの中に書いてありますので、そちらのほうを御覧ください。以上になります。

○高野会長      ありがとうございます。特に（2）番の新規業務委託事業所に関しましては、随分以前に決めたこの協議会のルールで、事後承諾ということで、実際に委託を受けるときには両地域包括支援センターと事務局のほうで、説明にもありますけれども、必要な書類などを確認していただく可否を検討し、既にケアプラン作成などをお願いしている形で、追認という形に我々の協議会ではなるという、そういうものでございます。

したがいまして、特にご異論がなければ次に進めたいと思いますが、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、最後の議事が「その他」ということになってございます。まずは、事務局からの報告事項をお願いします。

○赤石澤      事務局からの報告事項ですが、次回の予定についてでございます。令和  
相談係長      4年度第1回の運営協議会は、令和4年7月頃を予定しております。内容につきましても、千代田区における高齢者福祉の取組について、それから各高齢者あんしんセンターの令和3年度の事業の実績報告、決算・予算、指定介護予防支援の委託状況を予定しております。以上になります。

○高野会長      ありがとうございます。今回は次年度7月頃ということですね。そのほか、全体を通して委員の皆様から何かあればと思いますが、いかがでしょうか。全体を通して、よろしいでしょうか。杉山先生。

○杉山委員      包括の皆さんにというよりは、委員の先生たちにお伺いしたいのですが、特に民生委員の方たちや今回公募の委員でいらっしゃる丸橋様などにお伺いしたいのですけれども。

千代田区というのは、ボランティア組織やインフォーマルな活動の団体などが、あまり目立ったところがなく、包括に1つボランティアがあるとは聞いているのですけれども、なかなか育ちにくいというか、認知症サポーター養成講座を修了した方などが、なかなか会として活発に取り組んだりというのが難しいと聞いているのですが。

実際のところ、住民の皆さんたちというのは、どんな感じでそういったところをやれそうだとか、こんな会があるよということが、もしありましたら教えていただきたいなと思うのですけれども。

○高野会長　まさに地域課題ですね。では、民生委員の方か公募委員の方かということでしたので、丸橋さん、何か今のご質問に関して、杉山先生からの質問に関して、区民の1人としてというか、丸橋さんも何かご活動されているとおっしゃられていたのですけれども、今のご質問に関して何かお答えできる部分があれば、ぜひお願いしたいと思います。

○丸橋委員　私も認知症ケアラーが始まった頃はかなりやって、恐らく3回ぐらいは認知症の受けているわけですが、認知症に関しての情報というのは、やはり年々変わってくると思うのですが、その後のステップアップというのが、ただ最近はやっていらっしゃると思うのですけれども、比較的そのままみんな終わってしまうところが、次の活動につながりにくい。

ただ、私はさっき申しあげました、社会福祉協議会というところのボランティア活動には参加しております、そちらのほうがボランティアは比較的、割と皆さんが今非常にやっています。

例えば神田さんのほうもそうなのですけれども、確か1月には神田さんの認知症カフェのほうで、私は音楽のヘルマンハーブというのをやっているのですが、その演奏会という形で、これはボランティアグループなのですが、そういう形で参加させていただいたり。

あと、IT、さっき、らくらくフォンが出てきましたが、今、区や町会も、LINEなどを使い繋がるようにしたいと力をいれていて、社会福祉協議会ではLINEボランティアのグループも出来つつあります

社会福祉協議会ではLINEボランティアのグループも出来つつあります

多分千代田区の問題は、それぞれはやっているのだけれども、例えば生涯学習センターさんでも何かやっているのだけど、それぞれが繋がっていない、そういうところが問題なのではないかと私自身は思っています。以上です。

○高野会長　よろしいですか、ありがとうございました。そのほか、ご意見・ご質問等はありますでしょうか。

それでは、ないようでしたら、ここまでにさせていただきたいと思えます。本日、委員の皆様から様々なご意見が提示されましたが、事務局のほうでも整理していただいて、今後の両地域包括支援センターの運営等に生かしていただきたいと思えます。

それでは、本日の運営協議会はこれで閉会したいと思います。会進行のご協力ありがとうございました。